

すいた環境サポーター養成講座 第9回目

日時：11/18(日)10:30~16:00

場所：千里山コミュニティセンター多目的ホール

◆ワークショップ運営実務 1

担当：(特活) インクルージョンプログラムラボラトリ 事務局長 岩屋 さおり 氏

団体のミッションや、グループの想いをどのようにイベントやワークショップとして具体化したらよいのかについて、マネジメントとプログラムの両面から説明がありました。アウトプットとアウトカムの設定、人材、資金、場所や道具などの確保等について、実践的な内容でした。そしてイベント等の終了後には、次の活動をよりよくするために、スタッフ間でフィードバック(ふりかえり)をおこない、活動を継続的なものにしてほしいとのことでした。



この講義当日の午後からは、一般市民を対象とした公開ワークショップが開催され、講座の受講者が学習したスキルの指導を実践する機会となります。講義に引き続き、公開講座のための会場設営、役割決め、イベント内容の確認と実施準備になりました。各ワークショップの指導担当のスタッフと話し合いながら準備を進め、指導スキルについてもこの時間に学びました。



お昼の休憩をはさんで、公開ワークショップの直前準備をおこないました。広報担当の受講者は、会場ビルの1階と出入り口近辺から千里山駅の近くまで、分担してチラシを配布しました。お天気にはめぐまれたのですが、あまり人通りがなく、苦労して配ってくれました。



◆(公開)ワークショップの実践 1

開始時刻になると、親子連れや公開講座までの待ち時間を有意義に過ごそうという人々が各コーナーに参加し始めました。

伝承草花遊びのコーナーでは、第2回(9/9)の「伝承野遊び」で学んだことを思い出し、「ケモリ(葉で作る草の器)」と「草笛」の作り方を受講者が指導しました。草笛は、笛を鳴らすことができるようになると、参加者も受講者も一緒になって喜んでいました。



はがれないばんそうこうのはり方のコーナーでは、第7回(10/25)の「アウトドア ファーストエイド」で学習したことを活かして、はがれにくいばんそうこうのはり方を指導しました。

ばんそうこうのはり方をきっかけとして、応急手当の方法や大切さについても話をすすめていました。



環境小咄^{こぼなし}は、万博公園のネイチャーガイドとして案内役をつとめる方々が担当しました。彼らはアマチュア落語家で「美しく青き道頓堀川」や古典落語の「道具屋」に着想を得たはなしを披露しました。聴衆を笑わせながら、環境について考えるきっかけ作りがなされ、参加者からは「(環境問題は)小難しいと思っていたけれど、気楽でわかりやすかった」という感想が聞かれました。



水の生きもののぬり絵コーナーでは、子どもから大人まで熱心にぬり絵を楽しみました。色を塗りながら、アメリカザリガニやメダカについてなど、水生生物についての話がはずみました。このコーナーは、保護者が公開講座(ワークショップ終了後に開催)に参加している間も子どもがぬり絵をして待ってられるように、その終了時まで実施していました。



◆(公開講座)地球温暖化 細菌を活用した最新緩和策研究、NPOと研究機関のコラボ

講師：大阪大学・太陽エネルギー化学研究センター 中西 周次 氏

公開講座は「小さな微生物に学ぶ地球環境問題へのアプローチ」と題して行われました。

主に植物が行う光合成は、水と二酸化炭素と太陽光エネルギーから、グルコースと酸素を作っています。一方で人間は化石燃料を燃やすことによりエネルギー(電気など)を作り出していますが、温室効果ガスである二酸化炭素も排出するので、環境に悪影響を与えています。環境負荷が少ない技術として、人工光合成が紹介されました。太陽エネルギーを活用する技術として人工光合成の研究がすすみ、電気エネルギーへの変換が実用化されれば自然と調和した技術となるだろうというお話でした。



◆ふりかえり

第9回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。